

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年7月12日

【四半期会計期間】 第40期第1四半期（自 2024年3月1日 至 2024年5月31日）

【会社名】 株式会社ジェーソン

【英訳名】 JASON CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼会長 太田 万三彦

【本店の所在の場所】 千葉県柏市大津ヶ丘二丁目8番5号

【電話番号】 (04) 7193 - 0911 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 井上 健

【最寄りの連絡場所】 千葉県柏市大津ヶ丘二丁目8番5号

【電話番号】 (04) 7193 - 0911 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 井上 健

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第39期 第1四半期 連結累計期間 | 第40期 第1四半期 連結累計期間 | 第39期 |
|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2023年3月1日 至 2023年5月31日 | 自 2024年3月1日 至 2024年5月31日 | 自 2023年3月1日 至 2024年2月29日 |
| 売上高 (千円) | 7,293,994 | 7,213,839 | 28,740,132 |
| 経常利益 (千円) | 369,394 | 323,722 | 910,009 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円) | 230,695 | 198,511 | 602,899 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 230,695 | 198,511 | 602,899 |
| 純資産額 (千円) | 5,748,762 | 6,152,925 | 6,120,966 |
| 総資産額 (千円) | 11,442,244 | 11,527,612 | 10,766,362 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益 (円) | 18.01 | 15.49 | 47.06 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 50.2 | 53.4 | 56.9 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があることと認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業業績を背景に株式市場が活況を呈し、雇用・所得環境の改善も相まって緩やかに回復している一方で、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など海外景気の下振れがリスクとなっており、不透明な状況が続いております。

小売業界においては、人流の回復やインバウンド消費の拡大等により堅調な需要が続いているものの、人件費をはじめとした各種コストの高騰が重荷となっており、今後の経営環境は引き続き厳しい状況が予想されます。

このような状況のもと、当社グループは引き続き徹底したローコストでの店舗運営を推進すると共に、JV商品（ ）やオリジナル商品の取扱強化、並びに居抜き物件主体のスクラップ&ビルド推進による店舗数拡大を図り、「人々の生活を支えるインフラ（社会基盤）となる」との企業理念の下、地域における生活便利店としてチェーンストア経営に注力して参りました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、主力商品であるペットボトル飲料の販売自体は引き続き好調に推移したものの、飲料比率が高まったことによる一部商品配送の混乱と商品ラインナップの偏りなどにより、売上の伸びが計画を下回る結果となり前年同期比減収となりました。また、利益面においては、ローコスト経営による各種コストの抑制や水道光熱費等の低減効果等もありましたが、売上高および売上総利益の減少を補うには至らず、前年同期比減益となりました。現在自社物流の適正化に向けて、トラックの増車や配送システムの一部見直し等具体的な対応策を進めているところです。

出店状況については、5月に東京都東村山市の「東村山青葉町店」が開店し、直営店舗数は113店舗となりました。

また、当社オリジナル商品である「尚仁沢の天然水」については、引き続き好調な販売を維持しているほか、新たなPB商品として「はじける強炭酸水（天然水の炭酸水）」を投入し、好調に売り上げを伸ばしております。子会社株式会社尚仁沢ビバレッジにおいては、計画通り既存設備の一部入替を実施、当該設備投資に係るコストについても吸収し製造原価の低減を継続しながら、連結業績に大きく貢献しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高7,213,839千円（前期比1.1%減）、営業利益313,982千円（同13.0%減）、経常利益323,722千円（同12.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益198,511千円（同14.0%減）となりました。

なお、当社グループにおいては、小売事業以外の重要なセグメントはありませんので、セグメントごとの経営成績の記載を省略しております。

（ ）JV（ジェーソン・パリュール）商品

当社グループの特別な集荷努力により、お客様と当社グループ双方にとってより有利さを実現した商品。

財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて761,250千円増加し、11,527,612千円となりました。これは主に、商品及び製品が317,287千円、現金及び預金が248,820千円及び売掛金が134,884千円増加したこと等によります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べて729,290千円増加し、5,374,686千円となりました。これは主に、買掛金が481,530千円、短期借入金を含む有利子負債が164,449千円増加したこと等によります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて31,959千円増加し、6,152,925千円となりました。これは、利益剰余金が31,959千円増加したことによります。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 50,000,000 |
| 計 | 50,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2024年5月31日) | 提出日現在発行数(株) (2024年7月12日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|-----------------------------|------------------------------------|---------------|
| 普通株式 | 12,812,000 | 12,812,000 | 東京証券取引所 スタンダード市場 | 単元株式数 100株 |
| 計 | 12,812,000 | 12,812,000 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2024年3月1日～ 2024年5月31日 | | 12,812,000 | | 320,300 | | 259,600 |

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2024年2月29日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2024年2月29日現在

| 区分 | 株式数（株） | 議決権の数（個） | 内容 |
|----------------|----------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式（自己株式等） | | | |
| 議決権制限株式（その他） | | | |
| 完全議決権株式（自己株式等） | （自己保有株式） 普通株式 200 | | |
| 完全議決権株式（その他） | 普通株式 12,809,500 | 128,095 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 2,300 | | |
| 発行済株式総数 | 12,812,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 128,095 | |

【自己株式等】

2024年2月29日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 （株） | 他人名義 所有株式数 （株） | 所有株式数 の合計 （株） | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合（％） |
|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| （自己保有株式） 株式会社ジェーソン | 千葉県柏市大津ヶ丘 二丁目8番5号 | 200 | | 200 | 0.00 |
| 計 | | 200 | | 200 | 0.00 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、アーク有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2024年2月29日) | 当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,220,983 | 4,469,803 |
| 売掛金 | 433,983 | 568,867 |
| 商品及び製品 | 2,435,756 | 2,753,043 |
| 原材料及び貯蔵品 | 16,788 | 22,791 |
| その他 | 188,499 | 209,476 |
| 流動資産合計 | 7,296,010 | 8,023,982 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 2,127,166 | 2,144,697 |
| 減価償却累計額 | 1,566,418 | 1,579,685 |
| 建物及び構築物(純額) | 560,747 | 565,011 |
| 機械装置及び運搬具 | 277,666 | 306,679 |
| 減価償却累計額 | 250,769 | 252,412 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 26,897 | 54,266 |
| 工具、器具及び備品 | 504,245 | 506,413 |
| 減価償却累計額 | 464,987 | 468,018 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 39,257 | 38,395 |
| 土地 | 1,105,718 | 1,105,718 |
| リース資産 | 411,331 | 421,678 |
| 減価償却累計額 | 138,532 | 155,015 |
| リース資産(純額) | 272,799 | 266,663 |
| 建設仮勘定 | 12,660 | 4,536 |
| 有形固定資産合計 | 2,018,080 | 2,034,591 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 900 | 871 |
| その他 | 158,999 | 158,355 |
| 無形固定資産合計 | 159,900 | 159,226 |
| 投資その他の資産 | | |
| 敷金及び保証金 | 958,102 | 971,035 |
| 繰延税金資産 | 199,533 | 201,790 |
| その他 | 134,734 | 136,985 |
| 投資その他の資産合計 | 1,292,370 | 1,309,811 |
| 固定資産合計 | 3,470,351 | 3,503,629 |
| 資産合計 | 10,766,362 | 11,527,612 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2024年2月29日) | 当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 2,092,098 | 2,573,628 |
| 短期借入金 | 200,000 | 348,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 343,671 | 406,213 |
| リース債務 | 75,204 | 74,673 |
| 未払金 | 364,295 | 398,482 |
| 未払法人税等 | 166,907 | 135,071 |
| 賞与引当金 | 36,449 | 63,365 |
| その他 | 181,451 | 216,119 |
| 流動負債合計 | 3,460,078 | 4,215,553 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 191,564 | 154,034 |
| リース債務 | 244,070 | 236,039 |
| 繰延税金負債 | 1,120 | 8,581 |
| 役員退職慰労引当金 | 376,980 | 382,234 |
| 退職給付に係る負債 | 178,550 | 184,288 |
| 資産除去債務 | 176,383 | 177,524 |
| その他 | 16,647 | 16,430 |
| 固定負債合計 | 1,185,317 | 1,159,133 |
| 負債合計 | 4,645,396 | 5,374,686 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 320,300 | 320,300 |
| 資本剰余金 | 259,600 | 259,600 |
| 利益剰余金 | 5,541,123 | 5,573,082 |
| 自己株式 | 57 | 57 |
| 株主資本合計 | 6,120,966 | 6,152,925 |
| 純資産合計 | 6,120,966 | 6,152,925 |
| 負債純資産合計 | 10,766,362 | 11,527,612 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年5月31日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 7,293,994 | 7,213,839 |
| 売上原価 | 5,324,193 | 5,255,854 |
| 売上総利益 | 1,969,800 | 1,957,985 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,608,998 | 1,644,002 |
| 営業利益 | 360,801 | 313,982 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 511 | 435 |
| 受取手数料 | 4,786 | 3,006 |
| 固定資産賃貸料 | 2,959 | 2,447 |
| 受取保険金 | 95 | 3,958 |
| その他 | 2,317 | 2,009 |
| 営業外収益合計 | 10,670 | 11,858 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,578 | 1,634 |
| 固定資産賃貸費用 | 317 | 303 |
| その他 | 181 | 180 |
| 営業外費用合計 | 2,077 | 2,117 |
| 経常利益 | 369,394 | 323,722 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | - | 2,729 |
| 特別損失合計 | - | 2,729 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 369,394 | 320,993 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 134,474 | 117,277 |
| 法人税等調整額 | 4,225 | 5,204 |
| 法人税等合計 | 138,699 | 122,481 |
| 四半期純利益 | 230,695 | 198,511 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 230,695 | 198,511 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年5月31日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 230,695 | 198,511 |
| 四半期包括利益 | 230,695 | 198,511 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 230,695 | 198,511 |

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日) |
|---------|---|---|
| 減価償却費 | 40,066千円 | 38,262千円 |
| のれんの償却額 | 28 | 28 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2023年5月30日 定時株主総会 | 普通株式 | 166,552 | 13.00 | 2023年2月28日 | 2023年5月31日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2024年5月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 166,552 | 13.00 | 2024年2月29日 | 2024年5月30日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)

当社グループにおいては、小売事業以外の重要なセグメントはありませんので、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、小売事業を主な内容として事業展開しております。顧客との契約に基づき分解した収益は、以下のとおりであります。なお、当社グループは単一セグメントであります。

(単位：千円)

| 商品部門 | 前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日) |
|---------------|---|---|
| | 売上高 | 売上高 |
| 衣料服飾・インテリア | 143,913 | 148,662 |
| 日用品・家庭用品等 | 1,630,292 | 1,663,534 |
| 食料品 | 4,900,521 | 4,815,530 |
| 酒類 | 331,913 | 309,050 |
| その他 | 283,186 | 272,892 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 7,289,827 | 7,209,671 |
| その他の収益 | 4,166 | 4,168 |
| 外部顧客への売上高 | 7,293,994 | 7,213,839 |

- (注) 1. 「その他」は、仕入先に代わり当社が店舗へ商品供給を行う受取物流費等であります。
2. 「その他の収益」は、当社の店舗へのテナント誘致に伴う不動産賃貸収入であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日) |
|---------------------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益 | 18円01銭 | 15円49銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(千円) | 230,695 | 198,511 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円) | 230,695 | 198,511 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 12,811,720 | 12,811,720 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月12日

株式会社ジェーソン
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人

東京オフィス

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松本 勇人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村瀬 征雄

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジェーソンの2024年3月1日から2025年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ジェーソン及び連結子会社の2024年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施さ

れる年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。